

研究成果報告書

- ・機関及び学部、学科等名：富山福祉短期大学
- ・所属ゼミ：富山福祉短期大学 回想法サークル「思い出語ろう会」
- ・指導教員：牛田 篤
- ・代表学生：関野 洋平
- ・参加学生：細磨 祐貴
上村 理佳

【研究題目】

氷見市立博物館の民具を活用した地域回想法セットの映像化と利用満足度の検証

1. 課題解決策の要約

はじめに氷見市立博物館は昭和 57 年に開館し、市民から寄贈された民族資料が多数ある。それらは衣食住に用いられた生活用具や生業に用いられた農具(民具)などがある。氷見市立博物館ではこれらの民具資料を収集し、保存及び積極的な展示公開に努めてきた。またさらに民具を活用した取り組みとして、平成 22 年度から「地域回想法」を実践している。

氷見市立博物館の小谷氏は、「博物館が行う『地域回想法』～博物館の新たな取組み～」において、平成 22 年 3 月、市内のある介護施設へ訪問し、回想法デモを実施した。この際コンテナケースに入れた、以下の民具を持参し、9 名の施設利用者に、実際に手に触れてもらった。実物資料をテーブルに並べ、参加者がそのテーブルを囲む形で実施した。(中略)平素はほとんど反応のない女性も参加していたが、今回は積極的な働きかけもあって笑顔が見られた、などという話も聞かれた¹⁾と述べている。

このことから氷見市立博物館では、民具を展示物としての資料のほか、地域回想法のツールとして民具を活用し、博物館の資源と地域社会のニーズをつなぐ展開を目指している。

その際、氷見市立博物館では 4 種類の民具セット(以後、地域回想法セット)の貸出をおこなっており、貸出先も高齢者施設の職員だけではなく、地域の民生委員が主催する「おしゃべり会」でも活用の幅がでてきた。しかし、ここ最近では稼働率が伸び悩んでいるのが現状である。その点を本研究では地域課題として焦点を当てる。

要因の一つとして、事前に地域回想法セットの内容を知る機会があるのはカラー刷りのパンフレットが基本であった。そこで、本研究では前述課題に対して、氷見市立博物館の民具を活用した地域回想法セットの映像化と利用満足度の検証を行う。

2. 調査研究の目的

本研究の目的は、氷見市立博物館の民具を活用した地域回想法セットの映像化と利用満足度の検証である。そこで、氷見市立博物館で貸出されている地域回想法セットの紹介映像を撮影する。その際、貸出されている民具が実際にどのように使われていたかを説明した DVD を作成する。さらに、その DVD では地域回想法の基礎知識や魅力も映像に加えて作成し、地域回想法セットの映像化を行う。

そして、本研究で作成した DVD を用いた回想法講座を行い、視聴された高齢者施設の職員や地域住民を対象とし、地域回想法セットに関する調査を行う。本調査の結果から、地域回想法セットの使い方、使ってみたい民具など、それぞれの立場に合った地域回想法セットのニーズを把握し、本研究における利用満足度として検証する。

3. 調査研究の内容

内容:①地域回想法セットの映像化

平成 27 年 9 月 26 日、氷見市立博物館にて地域回想法に活用している民具セットの紹介映像を撮影する。地域回想法セットの紹介は氷見市立博物館・主査 小谷超氏に依頼する。現在 4 セットあるものを A～D セットとし、地域回想法セットの内容と各民具の説明を撮影する。その後、撮影した映像の編集作業及び DVD を作成する。

②回想法講座(DVD の映像を観ながらアンケートの説明)実施

日時:平成 27 年 11 月 24 日、12 月 15 日、16 日、17 日、25 日

場所:老人保健施設 アルカディア氷見1階 研修会場

参加者数:合計 52 名(回収率 100%)

<回想法講座の手順>

・書面と口頭にて、本研究の目的および調査内容の事前説明と同意を行う。

・同意を得た後、アンケート用紙を配布して記入方法の説明を行う。

※回想法講座の開催前に高齢者施設の同意を得る。

・DVD の映像を観る。

※事前説明、DVD の操作やアンケート用紙の配布は、指導教員が行う。

・後日、郵送にてアンケート用紙を回収する。

・アンケート用紙の内容は、以下の質問内容を分析対象としている。

質問 1「地域回想法セットを地域回想法で活用してみたいですか」

質問 2「今回の DVD で、実際に回想法で使ってみたい民具はありましたか」

質問 3「今回の DVD で、地域回想法セットの活用法について理解できましたか」

質問 4「本日のご意見・ご感想をお聞かせください」

<倫理的配慮>

・本研究では、全て書面と口頭にて事前説明と同意を行う。さらに、データを

分析する際、全て数字にて処理する為、アンケート協力者が特定される事は

ない。また、本人が本研究の協力途中で中止や質問することもできる。

③回収したアンケートの分析及び発表資料作成

④研究報告の普及印刷物作成

⑤研究発表 平成 28 年 2 月 16 日 富山県教育文化会館

4. 調査研究の成果

本調査研究の成果は、以下の通りである。

①氷見市立博物館の地域回想法に活用する地域回想法セットの映像化ができ、全てのアンケート結果から、本研究課題の一助になると考える。

②質問内容 1 について、「地域回想法セットを地域回想法で活用してみたいですか」

の問いに、79%(N=52)の方が実際に回想法で民具を活用したいと回答した。

③質問内容 2 について、「今回の DVD で、実際に回想法で使ってみたい民具はありましたか」の問いでは、「お手玉(しっちょこ)」「ふかぐつ」「つぶら」「アルミ製弁当箱」「草鞋」「ねんねこたんぜん」が人気の高い民具であった。

質問内容 1、2 の結果から、今回の調査で人気の高かった民具をもとに使いやすい地域回想法セットの作成案につながられると考える。また、地域回想法セットを使用する初心者に紹介する一つの基礎資料になると考える。

④質問内容 3 について、「今回の DVD で、地域回想法セットの活用法について理解できましたか」と質問したところ、64%(N=52)の方が理解できたと回答した。

質問内容 3 の結果から、従来のカラーパンフレットの紹介を基本とした時と比べて、映像を見た方々が地域回想法セットの活用方法や地域回想法の基礎知識の理解が深まる機会に寄与すると考える。その結果、より地域回想法セットの稼働率が上がり、氷見市立博物館の目指す地域ニーズに応える博物館運営と活動展開が可能になると考える。

質問内容 4 について、自由記述として以下の通りである。

- ・「私たちの知らない民具がたくさんあるので、この民具を活用し、どのように使ったのかなど、利用者さんに教えてもらったりして、コミュニケーションを図れたら良いなと思いました」
- ・「実際に(回想法で)使用している映像があれば、もっと見ていてわかりやすいかなと思いました」「映像があるとわかりやすいのですが、実際に使用している映像であれば、より分かりやすいのかな?と思います」
- ・「昔のことを知り、逆に高齢者の方に教えていただけるような時間をとり、患者さんとのコミュニケーションのきっかけとしてみたいと思いました。そこから、患者さんの声なき声を自分でくみ取れるようになりたいと思います」
- ・「民具を使った回想法で、利用者さんのお話が聞け、笑顔が引き出せたら良いのになと思いました。昔使っていた遊び道具で、遊び方を教えてもらったり、一緒に取り組めるものがこれからのケアに活かせるのではないかと思います」
- ・「回想法を実際に体験してみて、利用者さんの表情や動作に変化が出たのをよく覚えています。あの時に使用していなかった民具で、もっと利用者の反応が出そうなものが多くあったので機会があれば見せてあげたいと思いました」等といった地域回想法セットの映像化や地域回想法を肯定的に捉える回答を得た。

質問内容 4 の結果から、民具を知らない世代であっても、DVD を通して得た知識を糸口にして、地域回想法を実施し、世代間のコミュニケーションにつながると考える。

5. 調査研究に基づく提言

本研究によって、地域回想法で氷見市立博物館が貸し出している地域回想法セットを使用したいと考える方が多くみられた。またこれまで身近になかった民具でも、この DVD を通して知識を得ることができた方が 6 割いた。

前述のことから、今回作成した DVD を活用した地域回想法に関する取り組みは、地域回想法の普及やより良い実践につながると考える。

また、今回の調査では実際に民具に触れる機会の少ないと想定される 10 代・20 代の高齢者施設の職員が DVD を視聴し、「民具の活用方法を理解できた」と答えた方が 87%(N=8)と高い数値であった。よって、本研究は、10 代・20 代の若者にとって、地域回想法セットの民具を活用し易くできる機会につながる映像を作成できたと考える。今回作成した DVD を様々な場所や年齢層に観ていただき、地域回想法セットを活用することで、地域回想法は様々な世代が交流できるきっかけとなり、世代間交流の促進に期待できる。10 代から 90 代前後までが共通の民具に触れて、当時の思い出と現在の人生、今これからの生活を楽しく語り合うことは大切であると提言する。

さらに、氷見立博物館が地域回想法を展開する際、講師依頼として連携している NPO 法人シルバー総合研究所代表理事の来島氏は、地域回想法において、回想法を通じて誰もが気軽に身近な地域で、その社会資源を大いに活用し、人の絆を育み、地域のネットワークを広げることの重要性を述べている。そして「地域回想法は、いきいきとした『町づくり』に貢献する社会参加を目指す方法の一つであることを意識し、特に地域で暮らす高齢者にとっては、介護予防を目的として、自分の人生を振り返り肯定的に捉えることによって、健やかで豊かな人生を歩み続けていただくことを支援する手段の一つであると述べている。また同時に地域の持つ潜在している主体的な力を引き出し高めていくことを支援するものである」と述べている。

つまり、地域の社会資源を活用し、様々な世代が交流することによって、一人ひとりのいきいきとした社会参加、人の絆を育むことが大切である。よって、本研究は、研究課題を改善する上での一つの方法として意義があり、継続調査を進めることで氷見市立博物館の社会資源である地域回想法セットをより活用した世代間交流・いきいきとした社会参加、人の絆を育むことを促進することにつながると考える。

さらに、来島氏は、介護予防の視点を述べている。その点においては、平成 26 年度の介護保険法改正

により、要支援者に対する介護予防給付については、平成 29 年までの猶予期間を経て、市町村裁量になる地域支援事業に移行する²⁾。

その際、氷見市の高齢化率は平成22年度の調査において30.9%であり、全国水準(23%)を上回っているため、介護予防・生活支援の充実が求められている。

その際、地域回想法は住民主体で参加しやすく、地域に根差した介護予防活動を推進する可能性があるといえよう。よって、介護予防活動として、地域回想法セットを活用することは、地域支援事業として有効だと考える。以上のことから、氷見市立博物館に収蔵されている民具を貸出する地域回想法セットは世代間交流・地域の一人ひとりの社会参加・人の絆を育む・高齢者の介護予防の一助につながると提言したい。

6. 課題解決策の自己評価

本研究によって、様々な世代から回想法で地域回想法セットを活用してみたいと答えた方が 79%であった(N=52)。世代ごとの差異はあるが、地域回想法セットに対して、民具の知識や実施に活用してみたい民具の傾向、活用方法の考え方が示唆された。

本研究は、単純な稼働率の向上を検討するだけではなく、深刻化する少子高齢化において、高齢者と多世代をつなぐ世代間交流のコミュニケーション方法となる地域回想法の基礎知識、魅力、民具の説明を映像化した成果物があることは大きいと考える。

そして、成果と提言内容の通り、超高齢社会の課題に寄与する学生のフィールドワーク研究であったと考える。

しかし、本調査は、母集団が限定的であり、調査対象者が高齢者施設の職員に集中している。その要因としては、研究代表者の学生が授業や対策講座によって、日中の回想法講座が開催できず、一般地域住民への調査が行えなかったことである。前述については今後の課題であるが、継続調査を様々な場所と世代を対象に実施することで、地域や世代のニーズに沿った地域回想法セットの展開につながられると考える。

今回の課題解決策の自己評価としては、70%の成果と考え、今後の課題に関しては、継続調査を行い、今後さらに研究を進めたいと考える。

文献

¹⁾富山県博物館協会 デジタル展覧会・電子紀要 博物館が行う「地域回想法」～博物館の新たな取り組み～
氷見市立博物館 小谷 超（平成 28 年 1 月 15 日）

<http://museums.toyamaken.jp/documents/documents021/>

²⁾厚生労働省 介護予防給付と地域支援事業の充実について（平成 28 年 1 月 20 日）

http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutan_tou/0000027993.pdf

「回想法とライフレビュー—その理論と技法」単行本 野村 豊子（著）1998. 2

「地域回想法ハンドブック—地域で実践する介護予防プログラム」単行本 遠藤 英俊（監修），NPO シルバー総合研究所（編集）2007. 1

「Q&A でわかる回想法ハンドブック—『よい聴き手』であり続けるために」単行本 野村 豊子（編集），語りと回想研究会（編集），回想法ライフレビュー研究会（編集）2011. 8

「認知症予防のための回想法—看護・介護に活かすアプローチ」単行本 鈴木正典（著）2013. 12